Topic 25

米国ロード アイランド州の VCP

１）　こんなところです
２）　ロード アイランド州の VCP

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。今週はロード アイランド州にスポットを当ててブラウンフィールド再開発をみてみます。

１）こんなところです

ロード アイランド州は、マサチューセッツ州の南に位置しています。州の面積は全米最小。米国全体の地図をみると、あまりに小さくてどこにあるのか分からないくらいです。小さいけれども、この州における自由主義的考え方は、米国に大きく影響したといわれています。なぜここに自由主義的と呼ばれる考え方が広まったのか？　その答えは州誕生の歴史にあります。まだ、マサチューセッツ州が植民地であった 17 世紀、ロジャー・ウイリアム牧師という方が、信教の自由と土地の所有権はネイティブアメリカンにあると唱えておりました。この主張は、当時のピューリタンからすると言語道断。彼らはウイリアム牧師をマサチューセッツから追放してしまったのです。行く宛てのなくなった牧師とその支持者らは、アメリカンインディアンから土地を購入して村づくりを始めることになりました。想像を絶する苦労を重ね、その村を信教の自由を完全に認める唯一の植民地へと発展させていったのです。

ロード アイランドが米国加入するのは、約 1 世紀後の 1790 年 5 月 29 日。州総人口は、約 100 万人強、人口密度は約 270 人/k ㎡です（2003 年）。州都はプロヴィデンス市。本州最大の都市でもあります。氷河にけずられたなだらかな勾配を上手に使って都市開発を行っているということです。ここには、米国の高校生にかなり人気の高いブラウン大学（私立）があります。

２）ロード アイランド州の VCP と AAI

同じブラウンでも、今度は土壌汚染のブラウンについてお話します。この州が持つ VCP プログラムの正式名称は「工業用不動産修復改善と再利用プログラム（IPRR: Industrial Property Remediation and Reuse Program）」。このプログラムは、1995 年に州の環境管理局州全域プランニング課、経済開発局、及び民間からの代表者の協力によって開発された「工業用不動産修復改善と再利用法（IPRR 法）」のもと発足しました。IPRR 法は、汚染責任者の範囲を極めて広く定義している点において CERCLA（通称：スーパーファンド法）と大変似ています。しかし、汚染責任者に該当しなければ、自主的浄化を実施して浄化責任からの免罪符を獲得することが出来ます。VCP 登録対象者は、以下の 2 タイプです。

① 登録時点で、環境アセスメントや浄化修復を実施する予定のサイトを所有、あるいは運用していない。

② Bona fide prospective purchaser（BFPP；誠意の土地取得予定者）である。この言葉が意味するところは、「購入を検討しているサイトに汚染があることは既に分かっており、その汚染に対して無過失であることを証明するための作業を適切に行った者」です。

「無過失であることを証明するための作業」とは具体的にどんな作業なのでしょうか？

それは、米国の法律である「All Appropriate Inquiry（全ての適切な調査）」に則って土壌汚染調査を実施することを指しています。昨年 2005 年 11 月に新 AAI が調印・公示されており、今年 2006 年 11 月に正式施行されます。ですから、現在、米国では土壌汚染調査方法の変更期間であり、米国内土壌汚染ビジネスにおいてホットは話題となっています。AAI を実施すること以外にも、ロード アイランド州では BFPP になるための条件があり、プログラム登録の条件をみたしているのかどうかを判断する際には注意が必要です。

本州の VCP にも環境負債の免罪符的スキームがあります。今までご紹介してきた VCP と同様、プログラムに沿って汚染サイトの評価・浄化を完了すると、その暁には環境負債の免罪符である「Covenant Not to Sue（不起訴契約）」を取得することができます。

以下のインセンティブも利用可能です。

- 米国環境保護庁からの出資金を利用したクリーンアップ リボルビングファンド
- 自治体と NPO を対象としているアセスメント助成金
- 工場（Mill）跡地の再開発者に融資するレンダーへのインセンティブ

ちなみに、プログラム参加費用は 1,000 ドル。他州よりかなり高めです。

今週は、VCP に加えて AAI をご紹介しました。来週は、コネチカット州の VCP をご紹介します。

Thanks God It’s Friday!
Thanks God It’s Brownfield!!
環境メルマ　佐藤（t.sato@ers-co.jp）

坂野のつけたし（banno@ers-co.jp）

Nickname　--「オーシャンステート（大海原の州）」、「一番ちっちゃい州」「ちっちゃなローディー」「ニューイングランドの南口」

事例紹介　-Providence（プロビデンス）：1999 年の春、ロードアイランドゴルフ財団は州が所有するブラウンフィールドサイト（約 10 万㎡）をゴルフ施設にしたいと申し入れました。そのブラウンフィールドは、もともと砂利穴（工事用に砂利を採掘した後にできた大きな穴）で、その近くには金属回収業（産業廃棄物処理業）が操業していました。州は 3 万ドルの資金を調査費用として準備、その結果、鉛と砒素による土壌汚染が見つかったそうです。汚染された土壌は

7600m3 ほど掘り起こされ、州の規制にしたがって、敷地内の決められた場所に埋め立て管理（encapsulation）されました。州はその工事に約 9 万ドルを資金提供、現在ゴルフ財団は 1 年あたり 1 ドルでその場所を借り、民間からの寄付をもとに、家族や子供向けのゴルフトレーニング施設を設置、運営しています。（http://www.buttonhole.org/matriarch/default.asp　ゴルフ場のHP）（参考：http://www.epa.gov/brownfields/pdf/ss_golf.pdf）